

ロッテ、裏金疑惑の中国ラッキーパイの一部を昨年売却…残り2カ所も売却計画

2016年07月27日10時28分

〔© 中央日報/中央日報日本語版〕



ロッテグループが2009年に買収したラッキーパイのスタジオ写真。LHSCの株主会社である伊藤忠商事ホームページに紹介されたものだ。(写真＝伊藤忠商事)

ロッテグループが昨年7月の経営権紛争直後である昨年9月に中国のテレビ通販会社ラッキーパイの重慶地域の営業権を中国2位のテレビ通販会社の恵買商城に売却したことが明らかになった。ラッキーパイはロッテが経営権プレミアムを1200億ウォンも計上して買収し、また代表系列会社であるロッテショッピングを通じ440億ウォンの支払い保証を立てた裏金疑惑の中心にある海外系列会社だ。

ロッテ関係者によると、ロッテグループは2009年に1900億ウォンをかけてラッキーパイを買収した。ロッテショッピングが16.02%、ロッテショッピングホールディングスが51.1%、ロッテホームショッピングが24.03%などを出資し租税回避地のケイマン諸島にLHSCを設立した後、LHSCがラッキーパイの株式100%を取得する方式だった。日本の伊藤忠商事がLHSCの8.87%の株主として参加した。

中国は外資系企業が単独でテレビ通販を運営することができない。このためラッキーパイもやはり現地の放送事業者などとの合弁で運営された。重慶ではラッキーパイが49%、重慶放送局の子会社が51%を出資した合弁法人が運営された。山東地域ではラッキーパイが49%、山東放送局子会社が51%を出資し山東楽拍が運営された。雲南地域ではラッキーパイが49%、雲南放送局が51%を持つ雲南買楽がある。このほかにもラッキーパイにはIT子会社、コールセンター子会社などスタッフ部署の役割をする子会社が10社余りあった。

このうち昨年9月にロッテが売却したのは重慶の合弁が運営した重慶地域のテレビ通販放送営業権だ。2009年12月の開局から重慶の合弁は持続的な事業不振で苦戦を免れなかった。ロッテホームショッピング側は「中国の景気低迷と現地化失敗が主な原因」と分析した。

契約上秘密保持条項があり詳細な条件は公開されていないが、恵買商城は営業権を譲り受ける代わりにラッキーパイに新しい重慶テレビ通販法人の時尚優品の株式約32.7%を与えた。ラッキーパイ、恵買商城と重慶放送局の子会社が約3分の1ずつ株式を持ち合い、恵買商城が運営する方式だ。既存法人である重慶の合弁はまだ消滅していないが、今後清算方式が議論される予定だ。これとともにロッテはラッキーパイ傘下にある子会社もすべて整理した状態だ。2009年の買収当時に計画された河南と黒竜江地域のテレビ通販進出は事業権を得られず取り消された。

ラッキーパイの大株主であるロッテショッピングは3月に発表した業績公示でLHSCに対し1643億ウォンを損失処理した状態だ。ロッテ関係者は「事実上事業権がなく残存価値を0ウォンと処理したもの」と話した。残りの2カ所のテレビ通販についてはロッテグループ政策本部とロッテホームショッピング海外事業部門の見通しが交錯する。ロッテホームショッピング側は「山東と雲南のテレビ通販は自活力が十分運営可能だ」という立場だが、グループでは残り

の2カ所も処分する計画という。

つぶれた中国子会社をめぐる系列会社間の不協和音も出ている。ラッキーパイの実質的大株主はロッテショッピングだが、運営はロッテホームショッピングが行ってきた。ロッテショッピングホールディングス株式の100%、ロッテホームショッピングの53.03%をロッテショッピングが保有しているためだ。買収合併や事業権売却など大型の 이슈はロッテグループ政策本部で進めてきた。このためロッテホームショッピングでは「買収や構造調整はともに政策本部でしたが、検察の捜査は系列会社の現業部署で受けている」という反発があった。

【今日の感想】この記事を読んで・・・